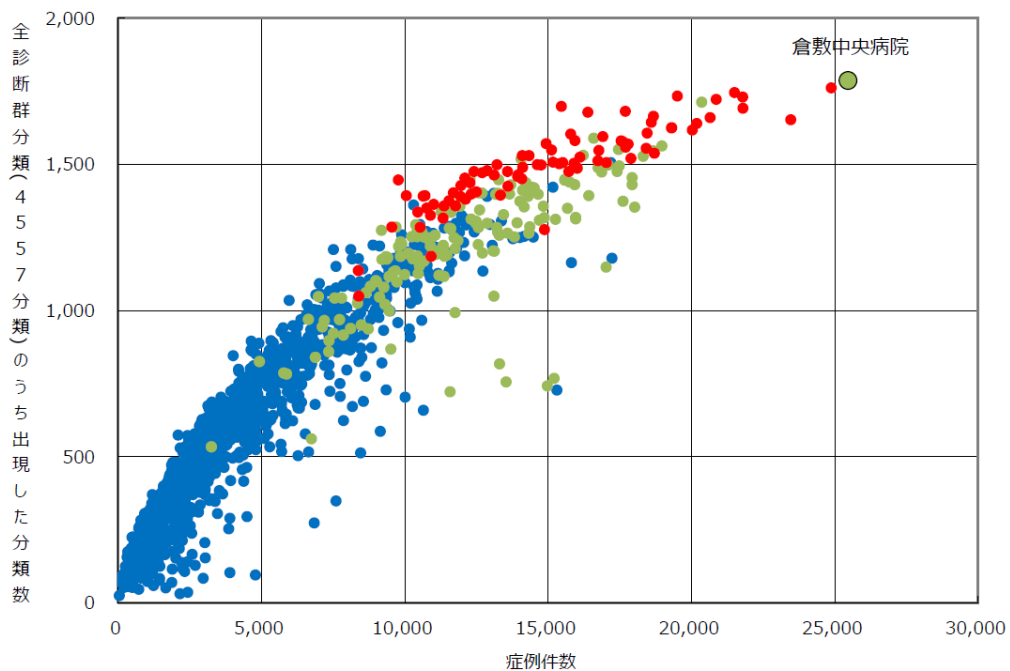


公益財団法人倉敷中央医療機構倉敷中央病院呼吸器内科



当院は地域中核医療機関として、臨床中心の高機能病院として地域医療への貢献をめざしています。ベッド数は1,162床で、下図のように、厚労省公開のDPC病院のデータでは、症例件数および出現分類数（経験した疾患の種類）の両方において全国のトップとなっています。

症例数 診断群分類出現数



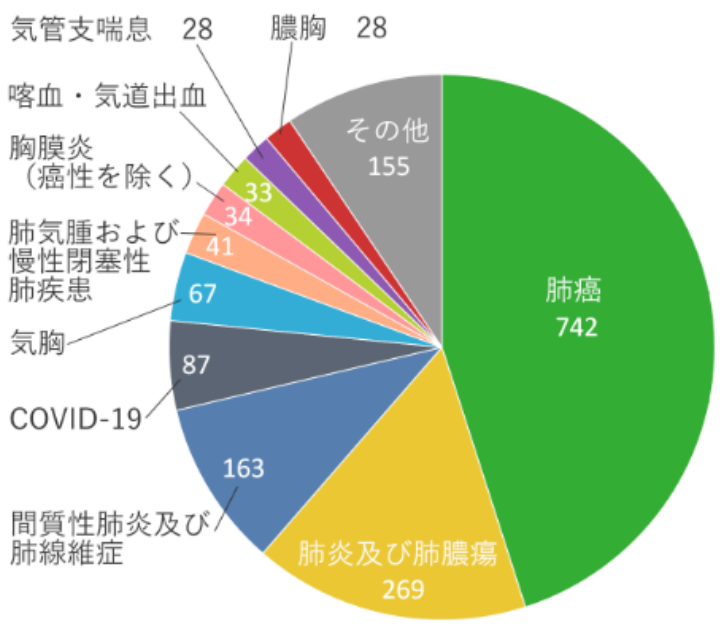
呼吸器内科は、ベッド数85-95床を有するわが国でも屈指の規模の科であり、2021年度は、年間入院患者延べ2855名を担当しており、気管支鏡検査は延べ1200件で、平均在院日

数は13.4日でした。下記に入院疾患上位の頻度図を示していますが、急性期から慢性期に至るまで、呼吸器分野におけるほとんどすべての疾患を網羅しています。シニアレジデントは、研修期間中にICU研修や、希望があれば他科研修も可能です。また、いろいろな分野での数多くの治験を手掛けています。

このように、多忙な臨床を行うとともに、臨床研究や対外的な活動にも注力しており、2021年度は、和文論文・総説13編、英文論文23編の執筆あるいは発表に関与しました。また、各種学会の多くの委員会に参加しており、全国的な臨床研究グループにも属しています。

先端の臨床や臨床研究に興味のある若手および中堅の先生方は、ぜひ当院での勤務もご検討ください。現在、医師の働き方改革が問題となっていますが、当院ではいち早くワークライフバランスを目指した取り組みを行っており、休暇取得促進、期間外勤務の短縮化を図っています。専攻医は内科全体で募集しますが、呼吸器内科に所属して、他科を同時にローテートすることが可能です。

入院疾患上位頻度図2021年（延べ退院患者数）



（文責 石田）